

認定こども園 はぐくみの家 仰木星の子
令和6年度 自己評価・施設関係者評価 報告書

1. 園の教育目標

<教育・保育方針>

- ・子ども一人ひとりを大切にする教育・保育
- ・子どもたちのより良い今と未来につながる生きる力を育む

<具体的な目標>

- ・主体的・意欲的に行動できる力を身に付ける
- ・遊びや活動を通して総合的な生きる力を育む
- ・社会の一員として望ましい資質（社会性）を育む
- ・基本的生活習慣の自立を育む

2. 施設関係者評価委員会の総評

令和7年1月29日に評価委員6名が同席の上公開保育を実施するとともに、今年度の本園における目標と取り組み状況の聞き取りを含めて施設関係者評価を行った。

温もりのあるエントランスと白を基調とした保育室に清潔感と心地よさを感じた。

また、家具や玩具なども園全体に統一性があり、年齢・発達・興味に応じた玩具が用意され、子どもが心身ともに落ち着いて心地よいと感じられる環境が整えられていた。

3歳児クラスでは普段の遊びから発表会に繋げたり、5歳児クラスでは3歳児の時に興味を持った『結晶』への継続的な取り組みとして、塩やみょうばんの結晶作りをされていたり、発展としてモールに結晶を付着させる作品作りをされていた。

他にも、梅干し作りの経験を通して、一回目にはカビが生えてしまう失敗から、次はどのようにしたらカビが生えることなく作れるかという2回目への挑戦。その過程には「探る・気付く」などみんなで考え取り組む姿が伺え、継続性や連続性のある保育を感じた。

上記のことから、養護・教育の面で評価できる点が見ることが出来た。

3. 本年度重点的に取り組む目標（評価項目）と自己評価及び取り組み状況

	目標・取組内容（評価項目）	評価	取り組み状況
1	こどもの意思と自己決定を尊重する保育。	A	園内研修で本取り組みに係る内容を保育者と共有し、クラスミーティング等で随時話題にしながら、こどもの意思と自己決定の尊重について、皆が考え、保育に取り組むことができた。 今年度の取り組みを継続、発展させて、次年度へつなげていきたい。
2	地域環境を子どもの学びのフィールドにする	B	地域の秋まつりへのブース出展、びわこ放送への訪問など、街へ出かけて学ぶ機会を複数回設けることができた。 次年度は人員配置や、園外保育の計画的な運用を行い、より一層充実させたい。
3	保育に関する記録のあり方の検討・見直し	A	本園においては、保育の計画や記録様式のあり方について、これまでも検討を重ね、園独自に改訂を行ってきた。 こどもの View（意見）を日々保育者は探し、周囲の保育者との対話の中で、子ども理解を深めることに取り組んだ。